

令和7年度 堺市依存症対策推進懇話会 議事録

1. 日時 令和7年9月10日（水）15時00分～17時30分
2. 場所 堺市役所本館6階 A・B会議室
3. 出席（構成員氏名・敬称略）

| | | | | |
|------|-------|------|------|-------|
| 伊東弘嗣 | 遠藤晃治 | 小野史恵 | 加藤剛 | 木原万樹子 |
| 高野善博 | 佐古恵利子 | 迫健太郎 | ソウマ | 辻たかえ |
| 寺井修也 | 野田哲朗 | 森美緒 | 綿野初美 | |
4. 事務局 堺市健康福祉局健康部
精神保健課（安岡 木寺 山根 鈴木 木村）
こころの健康センター（中西 正徳）
5. 会議次第
 - （1）開会
 - （2）案件・報告
 - ① 座長等の選出【資料2】
 - ② 令和6年度依存症対策事業実績【資料3】【資料4】【資料5】
 - ③ 意見交換および各機関からの情報提供
6. 議事等の内容
 - （1）座長等の選出
 - 委員の互選により、野田構成員が座長に選出された。
 - その後、座長の指名により、佐古構成員が職務代理に選出された。
 - （2）令和6年度依存症対策事業実績報告
 - 事務局から、資料3、資料4、資料5について説明があった。
7. 発言要旨
【遠藤構成員】
 - 令和6年度の相談実績で、薬物の相談件数が減少しているようだが、診療場面では、薬物での受診のうち、覚醒剤は減少、大麻の受診件数は増えている状況。
 - 行政への相談の減少は、直接、医療や自助グループにつながるケースが増えているのではないか。アルコールの相談も同様ではないか。
 - ギャンブル等依存症は、啓発が活発なので、相談件数も上がっているであろう。
 - 依存症専門医療機関の選定を受け、アルコール、ギャンブル等、薬物の依存の診療をしているが、

それ以外で、行動嗜癖なども診察している。プログラムは、希望する方には個別で行っている。

- アルコール依存は、AUDIT でいうと、20 点くらいの方が、受診に来られる印象がある。アルコールは、身体症状も出るので、内臓に障害が出ているが、離脱はない、という状態の方が受診に来られたら、改善されることが多いと思う。
- 薬物は、覚醒剤は減少、大麻が目立つ。受診のきっかけは、裁判前などの司法に関わることが多い。

【寺井構成員】

- ダルクでもコロナ以降、相談は減少。数年前までは相談は覚醒剤が中心であったが、ここ数年は大麻が増加。大麻は、逮捕をきっかけに相談に来られる方がほとんどである。
- ODクラブをしていたが、いったん 8 月末で休止している。WEB で実施しており、全国からの問い合わせは多かった。（OD：過量服薬）
- 最近、若年層からコカインの話を聞くことがある。少年刑務所に出向き、教育をしている。大麻が多いが、コカインもよく聞くようになった。覚醒剤は、覚醒剤後遺症などを見ていることもあるのか、覚醒剤をしても、やめていることが多い。
- ダルクの活動として、大麻の語りあいの場として「野菜クラブ」を 1 回/月、開催している。関心あれば、問い合わせしてくれば。

【加藤構成員】

- 大阪精神医療センターでの最近の話題は 2 点ある。一点目は依存症集団療法プログラムの維持、二点目は、スタッフ、若手医師の依存症への苦手意識を減らすことも取り組んでいる。
- アルコール、薬物、ギャンブル等の依存ではない依存症の方で、ゲーム依存などの行動嗜癖はギャンブル等依存領域で、OD は薬物依存のプログラムに含めるが、覚醒剤群と OD 群との特異差には留意している。
- また、「女子会」と称して、女性のアディクションのプログラムや、家族向けプログラムを用意し、過ごしやすい環境で受けていただいている。
- 依存症医療の難しさは、治療して完治というわけではなく、病院で治療して終えても、また戻ってくる、を繰り返すという風に見えてしまう。治療者が力及ばずという風に感じてしまい、苦手意識を持ってしまうのかもしれない。だから、気負わなくていいんだということを伝えていければと思っている。

【ソウマ構成員】

- GA に来られる方では、給料全額をゲームに課金している人がいる。ゲームの課金で相談に来られる人がいる。相談にのり、ゲーム依存の自助グループにつなげることもある。
- 昨今、電車に乗っていると、みんなスマホを触っている。依存症の人もいるのではないかな。
- GA は、お金がかからないので気楽にきてくれる。薬物依存の人もくる。ギャンブルと薬物のクロスアディクションの人が、GA に来てくれて、「ここは安心する」という発言があり、嬉しかった。
- いちょうの会の方と一緒に、施設に年に 2 回伺っており、そこに仮釈放中の方が入所しており、2 か月ほど GA に通ってくれた。仮釈放が終了したあとに、「どこかにつながりたい」と言ってくれた。本当に

嬉しく、自助グループの仲間の愛が、一人の人を救った。そのまま、つながり続けてくれたらいいが、ご本人の気持ち次第。ただ、自助グループを知ったということは大きいし、その人が「続けることができた」と、指導の方が言ってくれることが意味あることである。

【佐古構成員】

- こどもへの支援は、どのような介入をしていけばいいか関心をもっている。
- いちごの会では、治療につないでいく支援、自助グループにつなげる支援、つながり続ける支援ということを軸にしている。日中活動の場、仕事の場、居場所など広げていこうとしている。
- クレプトも最近増えていて、起訴されたりとしているが、依存症の問題とその周辺の問題、地域での課題、根強い生活保護や障害差別など、大きな問題がある。そのような問題も、この場で、みんなで話題とし、考えていければうれしい。
- 依存症の方は、回復していく中で、「やめたら楽になる、体は楽になるし、こころも気持ちよく、仕事もできる、やめる方が楽」という言葉をたくさん聞く。そこまでになるのが難しいけれど、それをどう支えるか、それを私達支援者は連携を取りながら大事にしていきたい。

【辻構成員】

- ギャンブル等依存症家族で活動しており、相談を受けている。大阪では北と南域で活動しており、南は堺で行っている。
- 会を開催したら、毎回、家族とともに、当事者がこられ、当事者のみで参加される人もいる。
- 昨今は、ギャンブルと OD などクロスアディクトの相談も増えてきた。
- ギャンブル等依存症は、ネガティブなイメージであるが、回復できることを知ってほしいし、必要な支援が必要な方に届くように活動している。

【小野構成員】

- こどもへの支援について、根本的なところで、こどもに与えられた権利を与えられるような取り組みを考えていきたい。
- OD の人はその背景にアプローチしていかなければいけない
- 藤井クリニックでは、アルコール依存症は減ってきており、ギャンブル等依存症が増えている。ギャンブル以外の行動嗜癖の方も増え、対応が複雑化している。
- 安全な場を作ることが求められている。
- 女子少年院で薬物再使用防止プログラムのお手伝いをしているが、出所後帰る安全な場所がなく、家庭に戻らざるを得ない状況もある。継続的な支援が必要だと思う。
- 教育分野との連携は必要で、生きる権利など考え、皆の知恵を借りて、支援の裾野を広げていきたい。

【伊東構成員】

- 大阪司法書士会の活動として、関係機関に出張相談を実施している。令和 7 年 2 月から大阪精神医療センターで、出張相談を行っている。

- 堺市こころの健康センターでも、今年度 2 回ほど出張相談を予定している。
- 藤井クリニックにも、今後進めていく調整をしていく。
- 最近、パチンコの射幸性が上がっているという情報を聞き、懸念している。

【木原構成員】

- 大阪弁護士会では、大阪府下の自治体の生活困窮相談と連携、法律相談も行っている。
- 相談者の中には、破産手続き中に、競馬をした履歴が残っていることがわかったり、服薬をして呂律が回らずに相談に来られたりということは多くあり、依存の可能性も疑われる方がいる。
- 相談は、多岐にわたり、破産の相談、離婚の相談等がある。ずっとネットゲームをしているこどもがいる家庭、8050 問題が潜んでいると思われる家庭もみられるが、十分に依存症治療に結びつけた相談対応までできない状況。

【高野構成員】

- アルコール依存症については、これまでの地道な啓発活動が、効果を上げてきていると実感としている。あいメンタルクリニックと金岡中央病院で治療に携わっているが入院患者数は減り、外来通院の依頼が比較的多い状況。
- 保健センターからの相談も減っており、直接医療機関受診されているのかと思われる。受診される方も、上司から受診を勧められた方や、産業医に受診を勧められた方も多い。この状況は、早期発見・早期介入が行えているのかと思う。
- 最近、ニュースで話題になった、航空会社の機長が飲酒によりフライトが遅れたという報道があった。昔は、アルコール依存症により生活が破綻したという時代であったが、今はアルコール問題を抱えている労働者が結構いるのではないかと考えられる。そういう状況であれば、今後は企業や会社などを巻き込んで、アルコール啓発を行っていくことが、大事になってくると思う。

【迫構成員】

- 保護観察は犯罪や非行をきっかけに裁判所の決定などにより受けることになる。犯罪や非行の背景には、何らかの依存の問題や影響は少なからずあると思われるため、そうした問題性に着目して指導や支援を進めている。
- 薬物依存の問題がある方には、薬物再乱用防止プログラムを実施している。堺市こころの健康センターや大阪ダルク、大阪マックなどに協力いただきながらプログラムを実施している。また、並行して家族支援も行っている。
- 保護観察の約束事としてプログラムへの参加が義務付けられる。保護観察期間は、短い方は、1、2 か月、長い方で 5 年ほどになるので、保護観察中に地域での治療や支援に繋げるという橋渡しにも重きをおいている。

【森構成員】

- 昨年、全国断酒連合会の全国大会が堺で行われ、今年は 8 月に堺市断酒連合会で一日研修、

先週は近畿ブロック大阪大会を開催した。

- 家族の方も多く参加され、当事者の方は断酒会にはまだ通われていないが、家族が家族会に入会いただき、体験談を語っていただき、積極的に参加いただいている。
- 私自身、現在、万博会場で就労しているが、身をもって感じたことは、周りのお客さんやスタッフが、朝まで飲酒をして二日酔いと言って来場や出勤したり、休憩時間にボートレースを見て舟券を購入している。その姿を見たとき、私自身は一生懸命お酒をやめ続けているが、普通の人はこういう感覚なんだと改めて感じた。周りの方が、二日酔いといっている、私は反面教師にして、飲んではいけないと思っている。

【綿野構成員】

- 大阪マックは、すべての依存の方を支援している。薬物依存の人が減っている。
- マリファナ依存の学生が、入寮し、プログラムを受けたいと見学に来られたが、中年層の利用者が多いため、利用につながらない。
- ギャンブル等依存の相談も多いが、ご家族が困って相談に来られるが、ご本人はなかなかつながらない状況。
- 女子少年院にも出向くことがあるが、そこでの職員から話を伺うと、薬物に頼らざるを得ない家庭環境で育っており、少年院からその家庭に戻ることを心配している。リハビリセンターのような、ケアができる場があればと思うが、活動の中ではそこまで手が回らないのが現状。

【野田構成員】

- アルコール依存症は本当に減ってきている。昔のアルコール中毒っていわれていた時代は、毎日飲んで、問題行動も起こして、治療に来られる方が多かった。今は、毎日飲まないが飲んだら止まらない、飲酒しているが問題行動はそれほど起こさない、という方も来院する。
- アルコール依存症の治療の医療現場も、いろいろな医療者がおり、「やめろ・やめろ」と言わなくていい「節酒」の考えもあり、ややこしくなっている。節酒のアプリも開発されており、断酒一辺倒から、節酒、飲酒コントロールなど、オプションが出てきていて、混乱している。早期に医療に来られる方が増えてきているので、アルコール依存症の医療は多様になってくる可能性がある。
- ギャンブル等依存症の方が増えており、若年の男子が多い。受診時は、かなりの額の借金を抱えている。初診でしっかりと話を聞いても、本人は借金を返すためにダブルワークをして働かないといけなくて、継続受診につながらない。
- アルコール依存が減っても、ギャンブルやコカインや大麻、買い物などの物への依存が増え、全体は減らないのかな、と感じる。クレプトやホスト依存など、これまで対象としてきていないアディクションが広がり、私たちがまだまだしていけないことはあると感じる。

以上